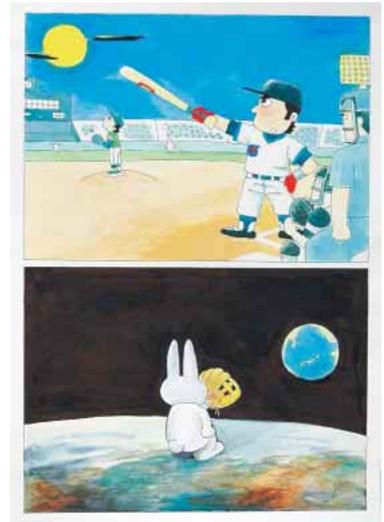


# 第15回吉備川上漫画グランプリ 入賞作品決定!!

「チャレンジ」のテーマで作品を募集した、今年の吉備川上漫画グランプリには、全国から746点(うち高梁市内からの応募は97点)の応募があり、審査の結果、次のとおり入賞作品が決定しました。今回は大賞作品と、市内受賞者の作品を紹介します。(敬称略)

## 大賞



野中福雄(5) 大阪府 月に向かって打て

## 佳作 (ジュニア)



田中樹里(12) 川上町地頭  
生まれたてのカエルの初飛行

## 審査員賞 (南一平賞)



日向泰基(11) 川上町下大竹  
蛇(じゃあ)切るぞー!

## 高梁市民賞



平本早恵(15) 落合町阿部 なんでも食べよう!

## 高梁市民賞



赤木啓子(14) 川上町高山 初めての山のぼり

## 佳作 (ジュニア)



黒川裕子(13) 宇治町穴田 無題

## 高梁市民賞



三村悦公(89) 津川町今津  
「八十八歳」で初挑戦

## 高梁市民賞



大和幸子(23) 下谷町  
きれいな野菜にチャレンジドン!

## 第15回吉備川上漫画グランプリ入賞結果 (敬称略)

賞	氏名	住所	タイトル
大賞	野中 福雄(5)	大阪府	月に向かって打て
優秀賞 (露永一朗賞)	榊原 太郎(2)	京都府	挑戦
審査員賞 (出光永賞)	加藤 量章(8)	愛知県	位置について~ よーい!
審査員賞 (多田ヒロシ賞)	大澤 華子(9)	東京都	滝のしゅ行でラッキー
審査員賞 (山田清香賞)	山本 郁子(15)	岡山市	チャレンジ
審査員賞 (平井一雄賞)	高木 理世(9)	井原市	新記録にむけてジャンプ
審査員賞 (南一平賞)	日向 泰基(11)	高梁市川上町	蛇(じゃあ)切るぞー!
佳作	ジュニア	黒川 裕子(13)	高梁市宇治町 無題
	一般	田中 樹里(12)	高梁市川上町 生まれたてのカエルの初飛行
シルバー賞	一般	宮振 武四郎(80)	東京都 楽しく挑む
	一般	朝比奈 泉(17)	倉敷市 バレないように...
	一般	宇佐見セツ夫(73)	埼玉県 プロよりうわ手
	一般	高橋 隆三(69)	神奈川県 チャレンジ
	一般	霜村 英靖(88)	北海道 組閣-改革へのチャレンジ
高梁市民賞	一般	吉永 文治(80)	千葉県 毎朝がチャレンジ!
	一般	中原 ミキオ(65)	東京都 負けず嫌い
	一般	三村 悦公(89)	高梁市津川町 「八十八歳」で初挑戦
	一般	大和 幸子(23)	高梁市下谷町 きらいな野菜にチャレンジドン!
一般	平本 早恵(15)	高梁市落合町 なんでも食べよう!	
一般	赤木 啓子(14)	高梁市川上町 初めての山のぼり	

## ☆漫画館ニュース☆

### 吉備川上ふれあい漫画美術館 入館40万人達成

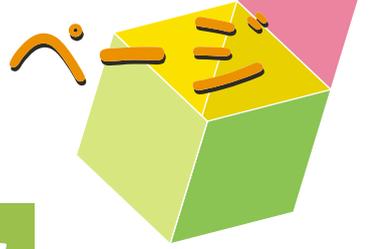


9月21日、平成6年4月のオープン以来、入館40万人を達成しました。40万人目となったのは、家族で訪れた森下雄仁君(高梁小6年・南町)で、「思ってもいない幸運で、びっくり。ヤッター!」と一言。記念品として漫画美術館回数券や桃太郎ぶどう箱詰が贈られました。

—お知らせ—

※なお、入賞作品および第一次審査通過作品は、10月22日(土)から11月30日(木)まで、吉備川上ふれあい漫画美術館(川上町地頭)で展示します。■問い合わせ 教育委員会川上分室 (☎48-2203)

# 市民の



## 文芸たかはし

(敬称略)

### 短歌

里芋の葉の上におく白露は朝日を受けて眩しく光  
 梅野 八郎(松 山)  
 六十路にて逝きませる母より尚生きて守られる身を日々々に想いぬ  
 小野はる恵(原田南町)  
 撫子を一ぱいかかえ君が待つ小道急いだ二十才の秋に  
 亀石恵美子(川上町仁賀)  
 老いゆきて好きな野菜や花づくり教わり乍ら年重ねゆく  
 戸田奈美子(川上町地頭)  
 浴道にマリゴールド花盛り花がら摘みつ国体待ちおちり  
 坂田 昭夫(松原町大津寄)  
 猛暑なり耐えて忍んで昨日まで夜明けて吹込む今朝の秋風  
 田中 弘子(川上町領家)  
 海行かば学徒出陣見送りし六十余年脳裏離れず  
 原田 由き(高倉町飯部)  
 ものふの勝閑かたひらに似て彼岸花棚田の畦を綴る如咲く  
 平 初音(高倉町田井)  
 窓くればいなほ出そろいゆたけさよ平和の夢にせみしぐれ  
 森崎 道子(宇治町宇治)

**俳句**

蟻落つや瞬時引き込む蟻地獄 長原 茂子(備中町西油野)  
 水やりの残暑の月日の暮れなずむ 平松 幾代(長寿園内)  
 風の盆若き灯火涙かな 結城 成子(宇治町宇治)

**川柳**

セクハラが議員バッチに泥を塗る 長谷川祐子(成羽町下原)  
 人間に消しごむほしいときもある 吉岡 麻江(鶴寿荘内)

# 地名をよるし

## 十二、中之町



高梁の町に「中之町」の地名を持つ町筋があります。紺屋谷川に面したキリスト教会堂の前の住之江橋を渡つたところ、左隅の高梁幼稚園から北への町であります。南は紺屋谷川、北は御前町へ通じる美濃部坂を隔て石火矢町、そして「中之町」の通りを突き当たり、左に折れて北へつながる町は片原町、東は頼久寺町、西には新町通りが並行しています。

「中之町」は、江戸時代には「中之丁」と書かれ松山城下町時代の家中屋敷(紺屋谷川以北の家中屋敷)町の一つで、中堅武士の屋敷地でした。江戸時代初期の元和三(一六一七)年小堀氏に替わつて、鳥取から六万五千石で入国した池田備中守長幸の時に取り立てられた町でした。この時代は家臣団も増加し、御根小屋を中心とした家中屋敷町も内堀といわれた小高下川(上谷川)や外堀といわれた紺屋谷川を越えて東や南へと広がり、城下町拡張の時代を迎えた頃でした。

「中之町」の南、紺屋町との境付近には門を設けたり、町の北の端で町通りを直角に屈折させて見通しを悪くしたり、城下町の防備を考えた町でした。

元禄(一六八八〜一七〇四)頃の「中之丁」は、「長さ二丁二十間、家数十二軒、百三十石、稲川新介ほか十一名」「水谷史」・「御家内之記」と記録され、その後石川氏の延享元(一七四四)年にも一二軒、そして幕末の慶応(一八六五〜一八六八)年間、板倉氏の頃には一三軒で一〇人の家臣が住んでいました(「増補版高梁市史」)。今でも町割は当時の堅町型の城下町の面影や、短冊型(京型)の屋敷割の面影

を残している町なのです。

また、江戸時代の藩校「有終館」が「中之丁」の紺屋谷川に面した位置(現・高梁幼稚園)にありました。延享三(一七四六)年、初代板倉勝澄によって本丁(現・内山下)に設けられていた学問所が四代板倉勝政の時、「有終館」と名付けられ藩校となりましたが、天保三(一八三二)年の大火で焼失したため、当時の学頭だった奥田楽山によつて「中之丁」に再建されました。それから後、天保一〇(一八三九)年二月の大火によつて再び焼失したため学頭だった山田方谷によつて再建され以後、松山藩の教育発展の中心となり明治四(一八七一)年まで続きました。この「有終館」には講堂や聖廟、剣道の道場、そして門長屋などの施設が整い、県下でも有名な藩校でした。今でも山田方谷の手植の松と伝えられる大きな松が高梁幼稚園に残っています。「中之町」という地名は、全国いたるところの町に見られる親しみやすい地名の一つであります。

高梁の「中之町」は近世松山城下町時代の家中屋敷町の名を、そのままとどめた地名なのです。池田氏の時代になつて城下の家中屋敷町が外堀に見立てられていた紺屋谷川を越えて南に広がつた時代に付けられたと思われる、その頃に「家中屋敷町の中央に位置している町」を表しているのです。このように「地理的中央」の意や「政治・経済の中心」という意に用いられることが多く、位置を示す地名の一つなのです。

(文・松前俊洋さん)



紺屋谷川側から見た中之町